

2026年度一般選抜(TEAPスコア利用方式) 記述式問題 解答例

科目:2月6日 TEAP世界史

設問2

19世紀末、インド国民会議派による独立運動が高まるなか、イギリスはヒन्दゥー教徒とムスリムの対立を利用し、独立運動を分裂させるためにベンガル分割令を公布した。ムスリム保守層は、全インド＝ムスリム連盟を結成して、一時は親イギリスの立場を取った。その後、全インド＝ムスリム連盟はヒन्दゥー教徒主体のネルーら国民会議派と対立し、ジンナーのもとでムスリム独自の利害を強調してパキスタンの分離独立に向かった。(198字)

設問3

イスラームの巡礼では、ムスリムが各自の生活空間から離れ、国境を越えてメッカに集まるのが、同じムスリムとして大きなイスラーム共同体への帰属意識を育むとされている。同様の事例としては、ヨーロッパ統合の歴史が挙げられる。戦後のヨーロッパ統合は、経済や資源、安全保障など現実的理由を中心に進んだが、そこにはヨーロッパとしての共通の価値への信頼もあった。その結果、言語や文化の多様性を認めつつ統合が図られた。このように国境を越えた共通意識は国を超えた連帯をもたらすことができる。他方で現在、イスラーム世界にもEU内部にも、異なる文化からの移民が多く居住している。そのため、現代求められているのは、共同体意識による国際的な連帯とともに、異なる文化の人々を排除しない「開かれた共同性」ではないだろうか。(344字)